

参加無料
申込不要

徳地代官 服部半七郎 と徳地

～倒幕に生涯をかけた一地方行政官の顔～

慶応元年(1865年)1月14日、美祢大田絵堂では雨の中、激しい戦いが行われていた。奇兵隊らの諸隊兵が萩本藩の多勢とする武士軍団を破った、世に言う「呑水のみずの戦い」である。この日、徳地では約200名の諸隊兵が大砲・小銃を手に徳地勘場(代官所)を取り囲み、俗論派代官の桂与一右衛門を追い払ってしまった。徳地は、山口を挟んで重要な軍事拠点であった。その後再び、服部半七郎が徳地代官として着任する。

幕末の大動乱の中、この事件を挟んで明治を迎えるまでの3年半、服部半七郎は徳地代官として倒幕に生涯をかけ、そして維新を迎える。洋々として新しい時代を歩み始めた矢先、明治元年(1868年)12月、突然、山口で自らの命を絶つ…。なぜか？

令和6年

日時

9月14日(土) 10時～12時

場所

山口市立徳地図書館 視聴覚室

講師

山田文雄氏 (徳地史談会 会長)

問い合わせ

山口市立徳地図書館

TEL 0835-52-0043